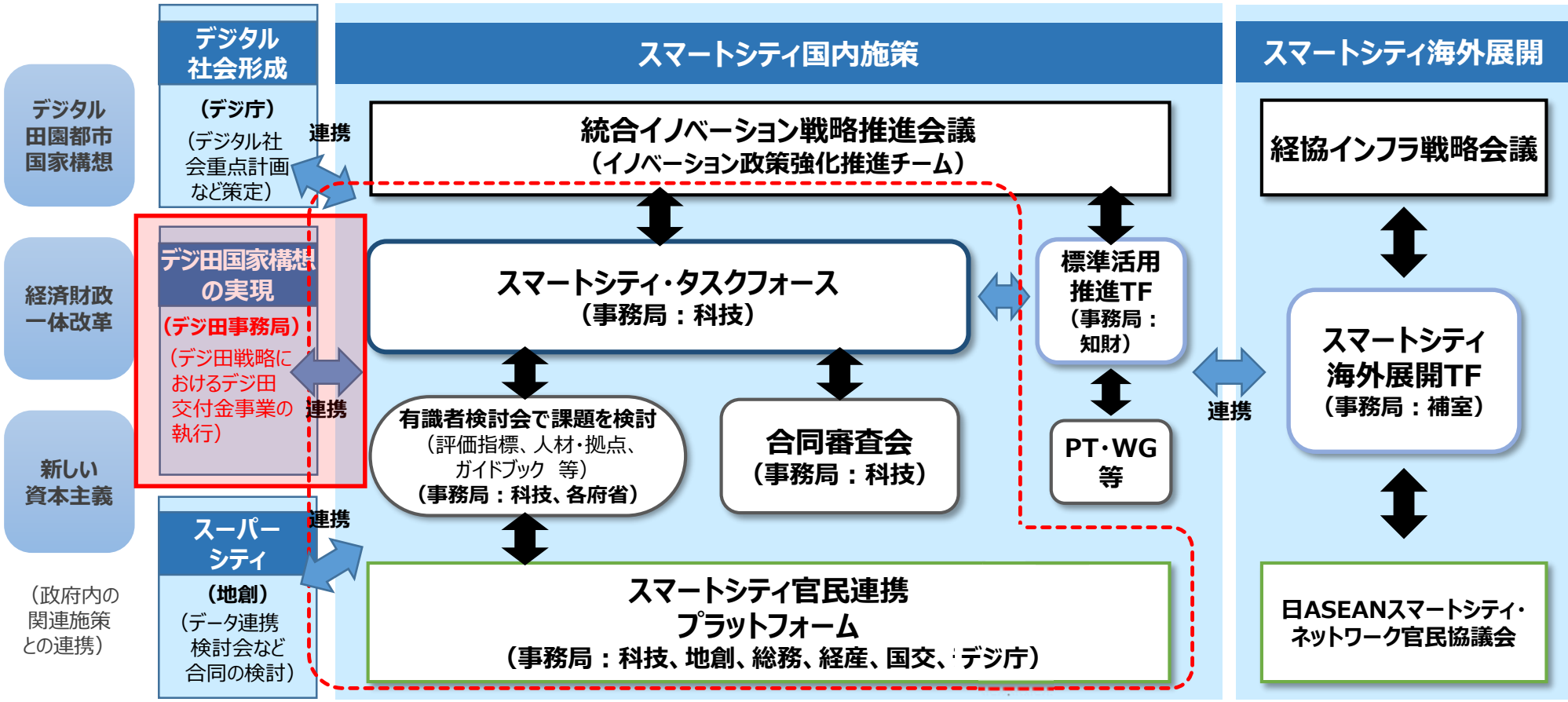


スマートシティタスクフォースの推進体制強化



実装に向けた施策強化のため、デジ田交付金とスマートシティ関連事業の取組の連携・発展を進める。

スマートシティの拡大・発展に向けた取組（標準活用・海外展開）

- 世界では、スマートシティの**実装が急速に進展**。
- その一方で、**都市データや都市OSが、巨大プラットフォーマーや覇権国家に囲い込まれる懸念**が顕在化。
- 日本では、関係府省が連携し、政府事業の基盤の共通化や、官民の連携の場の整備を推進。
- **G20を契機に世界の都市と連携**。安全かつ透明で開かれたスマートシティの実践を、日本から世界に展開。

1. 世界の動向

- 都市の課題（交通、健康・医療、災害等）や地域格差の解決に向け、各地で**実装が進展**

都市例	内容
EU（コペンハーゲン、サンタンデル等）	・街中のセンサーでデータを収集し、交通・廃棄物管理等に活用 ・スマートシティの標準プラットフォームを共同開発し実装
サウジアラビア（NEOM）	2030年までに2万6500平方kmの人工都市を5,000億ドルの投資をもとに建設予定。9つの重点分野を掲げる
シンガポール	・国全体にセンサーネットワークを展開し、国土を3Dモデル化 ・ASEANスマートシティネットワークを提唱
中国（雄安新区）	政府主導で多額の投資を行い、急速な技術実証・実装を推進（世界各国の最先端技術を導入）

2. 日本国内の取組

①政府事業の一体化： リファレンスアーキテクチャ

- ・ 2019年度SIPでスマートシティの標準的な設計・構築
- ・ 政府のスマートシティ関連事業において準拠
- ・ 相互接続性、拡張性を担保

- **スマートシティ・ガイドブック**を作成・公表（2021.4）
- **2025年度**までに計画的に**100地域での実装**、浸透を目指す

②産学官民の連携支援： 官民連携プラットフォーム

- ・ 760以上の自治体・企業・大学等の会員同士で経験を共有し横展開

3. 日本から世界へ

グローバル・スマートシティ アライアンス

- ・ 2019年のG20で日本が設立を提唱
- ・ 同年秋に横浜で初回会合
- ・ 相互運用可能なデータ連携基盤の基本的考え方や、
- ・ 成功事例を都市間で共有

- **世界規模で連携・協力を進め、開かれたスマートシティを各国で実現**
- **Society 5.0を本格的に社会実装**

● スマートシティは実証段階から実装段階へ

- ・ ~2025年、2030以降を見据えた中長期ロードマップの策定が必要
- ・ ロードマップの取組を裏付ける官民による施策・取組の具体化
- ・ 持続的な活動のための課題検討、推進拠点づくり・人材育成

《スマートシティTF、スマートシティ官民連携PF、等の活動をさらに展開》

● 国地方のデジタル化に対応したスマートシティ・アーキテクチャの進化・深化が必要

- ・ 分野間・都市間での連携を実現する共通要件の具体化（データ/システム/API、等）
- ・ スマートシティ取組について継続的な実装水準の評価（アーキテクチャへのフィードバック）

《今後、スマートシティの社会実装に向けた標準化、研究開発等の実施の可能性も検討》

⇒スマートシティの全国展開に向けて、関係者との取組の連携をさらに拡大していきたい

全国へのスマート
シティ展開

都市・地域の
課題解決のため
の体制づくり

DX・新技術の
実装の基盤づくり

参 考



2022年10月31日
内閣府 科学技術・イノベーション推進事務局